基本計画（素案）

３　小出郷文化会館の現状と課題

（３）魚沼市小出郷文化会館の課題

③　市民と同じ目線で

・プログラムが多すぎる。効率性を考えるべき。（第１回協働会議）

・一つの飽和点に達していると思う。（第１回協働会議）

・友の会は会員 300 人から頭打ちで増えない。入会するのに、敷居が高いという意識があるが、やめていく人もいない。（第１回協働会議）

・交通手段の問題は解決していない。足を運んでいただくための工夫が必要（第１回協働会議）

・市民の目線を引き続ける方策が必要。（第１回協働会議）

・公民館と同じレベルでの使用が考えられないか。（第１回協働会議）

・経費の縮減は大事である。（第１回協働会議）

・音楽が好きだが、一度も入場したことがない。（第１回協働会議）

・一般市民のニーズに合う事業を多くしてほしい。（第１回協働会議）

・民間委託にした場合、市がバックアップを保障するのであれば、専門の人が長く携わって良い運営ができるだろう。金がなくなると、質が低下するのではないか。（第１回協働会議）

・市民が使用するのが大事だが、それだと金にはならないか・・・。（第１回協働会議）

・基本コンセプトは変えず、魚沼市を代表する施設であってほしい。（第１回協働会議）

・今、実際にすごいことが行なわれている。その質を落とさず、進めていくために、市の計画を見て考えたい。（第１回協働会議）

・文化会館の名称がなぜ「小出郷」なのか。魚沼市立ではいけないのか。合併協で「当面このまま」となったために現在に来ているが、アンケートでもなぜ「小出郷」なのか、という声はある。（第１回協働会議）

・すばらしい活動をこれまでやってきていて、びっくりした。（第１回協働会議）

【市民アンケート】まとめ

・文化会館への期待として、低額料金を望んでいる層は特に若い世代が多いと思われます。CD が売れない、という日本の音楽業界そのものの市場の変化も、魚沼市のような地方まで及んでいるため、各世代に合わせた魅力あるプログラム企画が必要です。

・子育て育成の場としての期待感は高いものがあります。子どもたちの感性を磨く教育の場としてのコンセプトを継続し、効果的な事業を計画することが必要です。

・アウトリーチについては、一定の効果が表れているため、今後も、文化会館から距離の離れたゾーンで開催する必要性があります。また、開催場所も更なる掘り起しが必要です。

市民アンケートからの課題抽出

１　情報提供の的確さの向上

・チラシ等について、わかりやすく見やすい表現方法に改善を行う必要がある。

・ホームページの積極的な活用を図る。また、公式フェースブックの開設やツイッターの利用についても検討する必要がある、

・年間事業スケジュールを早めに確定させ、チラシを作成しＰＲに努める必要がある。

・イベントのＰＲだけではなく、会館のコンセプトや活動情報、トピックスなどの情報提供を行う必要がある。

２　各世代へのアプローチのあり方

・かまくらサロンやホワイエなどを利用し、ミニライブやサークルの発表会等を行うなどの、会館施設を有効的に活用する手法を検討する必要がある。

・子育て世代が来館できる企画や、イベント時において気軽に使える保育システムを構築するなど、親子で来館できるような配慮が必要である。

・若年層が参加できる企画の立案と、若年層が集える組織作りを進める必要がある。

３　市民ニーズと文化会館事業とのギャップ解消

・アンケートの結果を受けての企画立案を行う必要がある。

・企画運営委員会からの提案を、企画にどのように盛り込むか検討する必要がある。

・地域との連携による企画を推進する必要がある。

・市民主体の実行委員会による企画策定と実行を支援する必要がある。

・文化会館職員、サポーターズ等のスタッフの現況から見ると、今以上のプログラム実施は難しいことから、実施メニューの取捨選択をしていく必要がある。

４　システム再構築のための新たな連携のあり方

・文化振興室と生涯学習課との連携を図り、事業推進する必要がある。

・文化協会加入団体との連携を進める必要がある。

・子育て支援関係部署、地域振興関係部署、商工観光振興部署や外郭団体などとの連携を行う必要がある。

・県内、県外の会館、公立ホールとの連携を強化する必要がある。

５　チケット販売のあり方

・割引料金の導入など、ネット販売の拡大を図るための手法を検討するとともに、ネット購入の利便性確保を図る必要がある。

・市内、魚沼、中越、県内の営業エリア別の販売方針と目標を確認し設定する必要がある。

・手売りでチケットセールスをする職員の育成と、販売システムの充実を図る必要がある。

・サロンコンサートシリーズ券の導入やポイント制の拡充、ＰＲ等により、チケットが購入しやすい環境をつくる必要がある。

６　行政施策としての生きがい対策

・地域コミュニティとの共催事業を拡充し、気軽に文化事業に参加できるような環境をつくる必要がある。

・老人クラブ等の高齢者からのニーズの掘り起こしと事業連携を図る必要がある。

市民アンケートからの課題抽出

７　利便性向上の取り組み

・野外コンサートなど大規模なイベントの際、近隣事業所などへ駐車場の確保の協力依頼を行い、来場しやすい環境を整備する必要がある。

・関係交通機関と連携し、イベント時の交通アクセスの向上を図る必要がある。合わせて、循環バスの活用ＰＲを図る必要がある。

８　文化会館の経済効果の周知

・会館事業が開催される際の飲食店、旅館・ホテルへの宿泊、人と人との交流や滞流による人的効果など、それらの経済効果をアピールすることが必要である。

・文化や芸術は、衣食住のように日々の営みに必須のものではないが、心の豊かさを醸成するものであり、人として生きていくためには欠くことのできないものであることのＰＲが必要である。

・市民の文化会館に対するニーズは多種多様です。見たい、聴きたいというジャンルも映画、演劇を始め、音楽ひとつとってもクラシック、ポップス、ジャズ、フォーク、演歌など多彩です。かたやその一方で文化会館にまだ足を運んだことがないという人たちも数多く存在しています。世代間で求めているものは当然相違がありますが、休日の余暇の時間を自分の趣味のことに充てたいとか、定年後は新しい活動に取り組みたいという人は確実に増えています。したがって市民が何を求めているのかを知り、文化会館が市民目線に立ってニーズに応え、芸術・文化を鑑賞する場、人と人との出会いの場、共通の趣味や活動を行っている人たちとのマッチングの機会を作り、あるいはそれぞれを結びつけるコーディネーターの役割を果たしていくことも課題のひとつです。（協働会議平井副委員長案）

４　文化会館の理想像

（３）理想とする会館管理の姿

②　魚沼市の未来へ

・民間委託の受け手を、魚沼のことをよくわかった人にするべき。魚沼の文化をよくわかっている人にやってほしい。（第１回協働会議）
・金がなければ良い運営はできない。（第１回協働会議）
・穴沢ふれあい館でサロン・コンサートを開催して頂いてうれしい。（第１回協働会議）
・スクラップ＆ビルドが必要だが、「火」は絶やさないでほしい。（第１回協働会議）
・文化はもともとお金にならないことを、市全体から理解してもらいたい。（第１回協働会議）
・指定管理すべき。（第２回協働会議）
・その際、きちんとした仕様書を作る必要がある。仕様書の内容が重要だ。（第２回協働会議）
・レベルが落ちるのが心配。（企画運営委員会からの）建議書を踏まえて仕様書を作っていけばよいのではないか。スタッフのノウハウが必要で、人事もレベルを保ってやってくれ、ということ。（第２回協働会議）
・大事故の危険があるので、金がなくても、安全は大切だ。（第２回協働会議）
・住民参加型ホールというのはわかるが、多くの人はまだ足を運んでいない。ですので、子どもの頃から各種の行事など何かにつけて文化会館を利用するように、子供が身近に感じられるような環境作りが大切だ。（第３回協働会議）
・市民と行政の関わりについて、あまりにもそれぞれのつながり、文化会館と行政のつながりがあまり感じられない。（第３回協働会議）
・市民アンケートに「９２％が文化会館に行ったことがある」とあるが、そういう実感がない。市民と一体感が全くない。（第３回協働会議）
・文化会館に足を運んだ人は特定されている。（第３回協働会議）
・交通機関の問題がある。（第３回協働会議）
・人と人とのつながりの要になってほしい。市民と文化会館の一体感をもっと強く感じるように。そのための努力をもっとしなければいけなかったのではないか。（第３回協働会議）
・文化会館に行ったことがなくても、文化会館があることは自分たちの自慢だ、というような認識を生み出していくことも大切なのではないか。（第３回協働会議）
・開館当初の市民主体を生かしてもらいたい。民間委託を出す市としての責任がある。きちんとした仕様書を作って、この基本計画の中に織り込んでもらいたい。（第３回協働会議）

市民アンケートから

１　システムの再構築

・「子どもたちの感性を磨く教育の場」であることを第一義とする現在の会館コンセプトを再確認する。
・新しい公共について検討する。
・市民の主体性を生かした管理運営を図る。
・生涯学習、社会教育との連携と棲み分けを行う。

２　生きがい対策の確立

・福祉関係部署との連携を行う。
・豊かな心の醸成を芸術の力で実践するよう努める。
・高齢者が足を運びやすい環境整備とアウトリーチによる生きがい提供に努める。

３　若年層へのアプローチ

・若者が主体となった実行委員会の発足とアートマネージメントの育成を行う。
・中学生や高校生の望むプログラムの導入を検討する。
・若年層が望む野外コンサートの開催を検討する。
・テレビ局やプロモーター、芸術家と共催しての新たな野外コンサートの開催を検討する。

４　地域に出かけることの必要性

・アウトリーチ事業の内容充実を図る。
・映画や出前寄席など、ジャンルの拡大について検討する。
・コミュニティ協議会や自治会等との連携拡充を進める。

５　的確な情報提供

・わかりやすく興味を引くチラシやＤＭの表現方法の改善を行う。
・ホームページの活用によるリアルタイムな情報提供を行うよう努める。
・公式フェースブックの開設やツイッターなどによる情報提供に努める。
・文化会館の広報誌等による各種情報の発信を行う。

６　駐車場の確保

・大規模イベントに際し、他事業所駐車場等の有効活用を検討する。
・公園内駐車場の拡大策について検討する。

７　送迎シャトルバスの運行

・乗合タクシー、スクールバスの活用など、車を運転できない人へのサービスを検討する。
・イベント送迎バス・タクシー運行について検討する。
・新たなボランティア交通手段の導入について検討する。

８　市民ニーズと文化会館事業のマッチング

・「市民が主役」をモットーに、会館が実践する各種団体とのコーディネーター役の遂行に努める。
・市民プロデュース事業の推進とサポートを行う。
・文化事業だけでなく、誰もが気軽に集まれる場所の創出に努める。

市民アンケートから

９　各種団体、他自治体や他ホールとの連携

・商工会、観光協会等との連携により、市民が集える場を構築するよう努める。
・各種団体主催イベントとの連携を図る。
・広域連携イベントの検討を行う。
・文化庁の新たな助成金、劇場・音楽堂等間ネットワーク構築支援事業等の活用に努める。

10　市民の文化活動に対する支援と市民力・地域力の活用

・育成団体との協働事業の拡大、充実を図る。
・市民文化活動活性化助成事業の検討を行う。
・地域伝統芸能継承事業補助金の活用により地域の文化活動支援を行う。
・文化活動の地域への浸透を図る。
・魚沼地域における広域的な活動を展開するよう努める。
・女性の力の活用を図る。
・地域コミュニティとの連携強化を進める。

11　キーワード

時代認識　情報発信　協働　連携　地域力　市民力　市民プロデュース
出会いの場　感動体験　コーディネート　若者力　女子力　女性の登用
地域浸透　生きがい対策　医療・文化・福祉　広域化　新しい公共　システム化
アクセス向上　魅力の創出

12　市民アンケートから浮かび上がってくる命題

「より多くの市民からおいでいただくために、その本質として、今、文化会館に何が不足しているのか」

5　文化会館管理業務民間委託の基本方針

１．開館当初からのコンセプトは変えないこと。
２．きちんとした仕様書を確立すること。
３．市民の主体性を生かした会館とすること。（市民参画・協働・パートナーシップ）
４．文化芸術振興モデル（舞台芸術を見る劇場）のホールを目指すこと。
５．舞台・照明・音響の技術専門スタッフがいること。
６．アーツマネージメントの専門性を持った人材がいること。
７．会館組織を管理する経営感覚を持ったマネージャーがいること。
８．経費の削減に努めること。
９．利用者サービスの向上に努めること。（以上、協働会議平井副委員長）